

No	質問内容	ご回答
1	ハルシネーションや誤情報、偽情報を見分ける為のチェックポイントや特に注意すべき点、何かコツ等あればご教示いただけますでしょうか。	昔であれば、AIで生成したものをAIが判別できており、1年ぐらい前ですと、文章生成ではほぼ100%AIが生成した文章だと見抜けていました。ですが、現在は、人間が見抜くことは難しくなっており、AIだと見抜くことはほぼできないのではないかと思います。 目に見えるものを全て信頼することは危険だと考えております。複数のことを複数の路線から嘘を入れるということを組織立ってやられてしまうと難しいですが、面白い愉快犯みたいなものだの一つの情報だけなので、これが本当なのか情報源をあたる癖をリテラシーとして付けていくことが重要に思います。 一つのもので、それが誤情報である、AIが生成したものであるという判別をするのは難しい時代になっているということを感じておいていただきたいです。
2	貴社の業務も間違いが起こせない仕事だと思います。そんな中で確率的に振る舞う生成AIを導入する際、既存の文化との摩擦を乗り越える方法、また拒否反応がある年代の人に理解して頂く方法など、推進していくためにどんな工夫をされていますでしょうか？	まずはそのタスクが法令遵守や人道的に間違えてはいけないものなのかというタスクの種別を行います。そのような本先に致命的なものなのであれば、人のチェック機構をプロセスに入れ込むことになります。ただし、人間も10人いたら100%答えが一致することは少ないので（これを技術的には一致率とかカッパー値という指標でみます）、なにが正解なのか、間違いなのかを意識すること、AIを使うにあたってのリテラシー教育などが重要になります。AIについての拒否反応は確かに高齢になれば高くなる傾向はありますが、若年層でも一定の否定派はいると仮定した方がよいです。その上で推進するときに全てを取りこぼさない施策をとるのか、多少強行でも推進するのかなどの戦略をタスクごとに立てるのが重要だと考えています。
3	AIを有効に使うには組織の中のデータがAIにとって判読しやすくすることが必要と考えますが、準備段階で大切なことは何でしょうか？	データのガバナンスが重要です。誰がアクセスできるデータなのか（アクセスコントロール）、何のために作られたデータなのか（データカタログ）、どうやって作られたデータなのか（データ品質）などをしっかりと記録し、継続して品質を担保していく仕組みが組織の中にあることが重要です。一説には、諸外国に比べて日本のAI活用が遅れていることはこのデータガバナンスの欠如にあると言われてます（日本はCDOというとチーフデジタルオフィサーですが、海外ではチーフデータオフィサーが一般的であり、データガバナンスと活用を両面見ています）。AIの施策を考えるのと同時に、データの準備をしっかりとしておくことが重要です。
4	貴社の一般社員の皆様には、どの程度のAIリテラシーを求められていますか？AIに限らずデジタル活用を進めるにあたって、もし最低限求めていることがあれば教えてください。	社員にも必要なAIまたはデジタルの必要なリテラシーの層があると考えています。全社員としては、やはりAIやデジタルを利用する障壁にならない程度のAI/デジタル知識と、何がリスクなのかを理解して上手く付き合うスキルを持っていて欲しいです。そして、そのAIやデジタルのツールを提供する本社の支援部には、AIやデジタルを活用した施策を企画・展開・運用する少し高度なスキルセットとリテラシーが必要だと考えています。
5	日本は、エストニアのようにデジタルが社会に浸透することはあると思いますか？できないとしたら、その理由は何でしょうか？	個人的な意見ですが、現在のままの日本人のメンタリティでは完全なデジタルの浸透は難しいのではと思っています。一部の人が利用できることを「ずるい」という感情で妬んだり、使えない人を最後の一人まで救わないといけないという価値観では先端の技術は活用できませんし社会には浸透できません。では、使えない人を見捨ててもいいのか、ではなくて使えない人にはこういう対応を用意する、しかし使える人に比べると利便性が落ちることを許容してもらえるような社会にしないといけないのではないのでしょうか。